



ベトナム航空に5回乗る

ベトナムの二大都市、ハノイとホーチミンは南北に細長い国の北端と南端にある。鉄道でもつながっているが、一番速い列車でも約三十時間かかる。飛行機なら二時間なので、旅行者のほとんどは飛行機を利用する。航空会社はただ一つ、国営のベトナム航空があり、国外二十六路線、国内十七路線に就航している。今回はJTB旅物語の「八日間のベトナム大周遊モニターツアー」でベトナム航空に五回乗った。

前回のベトナムの旅

ベトナム航空

サビエル生誕五百年

巡礼の道

198

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)



車いすのままコンテナに

でホーチミンに到着後、国内線に乗り換えた際、かなりの距離を歩いたので、左足が不自由な妻のために車いすをお願いした。医師の診断書があるとかいろいろあったが、JTBの担当の女性が何度も電話をくださり、五回の搭乗に際してすべて気持ち良く対応してくれた。特に驚いたのはハノイに到着した時のことである。

番最後に降りるように言われ、待っていると車いすが届いたと、非常ドアが開けられ、そこにはコンテナが横付けされていた。係員が車いすを押しコンテナに入るとリフトで車に移し、入り口まで連れて行ってくれた。さらに他のツアー客と合流したあと、出迎えるバスまで係員が妻を車いすまで運んでくれたのである。同じコースを旅した友人が事前にその旅行



アオザイが制服の乗務員

記を送ってくれたが、そこには国営航空で国家公務員としてのエリート意識からか、サービスに欠けるようなニュアンスのことが書かれていたが、私たちが受けた印象とはかなり違う。

ただ友人も「日本人客室乗務員の笑顔が救いであった」とある。そう言えば、足の悪い妻のためトイレの近くの席をとお願いしていたのに、エコノミークラスの最前列、つまりビジネスクラスのすぐ後ろの席だった。念のため「ビジネスのトイレを使って良いですか」と女性乗務員に聞くと、ビジネス担当の

男性乗務員と相談し、返事は「ノー」カーテン越しに無愛想な男性乗務員が見える。女性乗務員は申し訳なさそうに「私が奥様と一緒にトイレまでまいります」悪いのは男である。アオザイ姿の女性乗務員が一段と美しく見えたことは言うまでもない。

乗務員に限らず結局は「人」である。出会う人が旅の、人生の良し悪しに大きな影響を与える。自分もまた他者に影響を与えている。大切なホスピタリティ、妻はベトナムならまた行きたいという。（元山口放送取締役ラジオ局長）